

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）

（総合）研究報告書

がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用
(H22-3次がん-一般-043)

研究分担者 大西洋 山梨大学放射線科 教授

研究要旨

本邦における、全臓器のがん治療の放射線治療の現状について調査と分析を行い、特に前立腺がんにおける診療の構造(医療従事者、設備)および診療課程の実態を把握してがん治療の質的評価をするためのデータベースJNCDBの基本フォーマットを作成した。また症例登録について関係諸科のリーダーと議論した。

A. 研究目的

JNCDBの実運用すなわち全国的な診療、特に治療の質の評価のためのデータ収集・分析を行い、施設に還元する。さらに診療科DB(臓器別がん登録)の標準化、院内、地域がん登録とのデータ連携を進め、入力重複の現場負担を軽減し、データの質向上を図る。特に臓器別では、前立腺がんに対してデータ収集・分析を行う。また他臓器がんについては、調査内容について考察の上議論を行い、DB構築作業に関わる。

B. 研究方法

臓器別担当として、前立腺がんの放射線治療の自体についてデータ収集・分析を行い、泌尿器科医と議論しながら登録フォーマットの入力項目を審議の上改定する。

C. 研究結果

詳細な入力項目を有するデータベースであるが、一般臨床で用いるために入力項目の構成を行った。がん診療の実態調査については前立腺癌の症例数の急増、根治的、高精度の治療の割合が増加していることが明らかになった。

D. 考察

JNCDBの前立腺がん癌登録フォーマット入力項目の見直しを行った。泌尿器科医師との議論を重ね、相互の立場を尊重できるように入力項目の調整を行う必要が見いだされた。他がんについても同様の検討が必要であると考えられた。

前立腺癌に対する放射線治療の均てん化を達成するために、標準的な治療方法を提案するとともに、施設間で標準治療を施行可能にする環境を整えることが必要であると考えられた。

JNCDBシステム構築のためには、他科の医師、厚生労働省、各自治体、各施設の協力と準備が必要であり、十分な資金と労力を要するががん対策基本法の支援により着実に作業が

進められている。

E. 結論

前立腺がん診療の構造・課程・結果を把握するためのデータベースを構築する基盤整備を進めた。日本のがん診療の現状を調査するのに適切なNCDBを早期に運用することが重要課題であり、泌尿器科、行政や各病院の協力が欠かせない。今後、実際の入力作業を啓蒙し活発化し、分析を進める必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

Onishi, H., Araki, T., Stereotactic body radiation therapy for stage I non-small cell lung cancer: Historical overview of clinical studies. Jpn J Clin Oncol. 2013 Apr; 43(4):345-50.

2. 学会発表

H. Onishi, Y. Shioyama, Y. Matsumoto, et al. Japanese multi-institutional study of stereotactic body radiotherapy for more than 2000 patients with stage I non-small cell lung cancer. 55th American Society for Therapeutic Radiology and Oncology annual meeting, Boston, 2013.

G. 知的財産権の出願・登録状況

特許取得
胸腹2点式簡易型呼吸位相表示装置
(Abches)